

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第2回上尾市産業振興会議
開 催 日 時	令和5年11月24日(金) 14:00~15:40
開 催 場 所	上尾市役所本庁舎 議会棟 全員協議会室
議長(委員長・会長)氏名	河藤 佳彦
出席者(委員)氏名	河藤 佳彦、飯田 裕之、大木 保司、松本 猛、北川 景子、池上 卓郎、田中 宏幸、井上 克典、塚田 隆史、古谷 和則(代理)、西岡 利浩、堀口 慎一 〈オブザーバー〉佐藤 公保
欠席者(委員)氏名	石川 泰正、松村 稔、石川 由貴、樽井 花子
事務局(庶務担当)	環境経済部次長 藤田 商工課長 小川、商工課副主幹 岡野、商工課主査 加藤、 商工課主事 三浦 農政課長 東、農政課主幹 互井
会 議 事 項	1 開 会 2 議 題 (1) 令和5年度の提言書に基づく施策について (2) 令和6年度の提言書の方向性について (3) 産業振興ビジョンの改定について (4) その他 3 閉 会
会 議 資 料	別紙のとおり

議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。

令和 6 年 1 月 22 日

会長の署名 河藤佳彦

議事録署名人 大木保司

議 事 の 経 過

事務局	<p>1 開 会</p> <p>定刻になりましたので、「令和5年度第2回上尾市産業振興会議」を開会いたします。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます、商工課長の小川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事前に委員の皆様へ配付いたしました次第に沿って進めさせていただきます。資料をお持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移る前に、開催通知でもご報告させていただきましたとおり、昨年度から検討を進めてまいりました令和5年度版の提言書が去る8月24日に河藤会長から畠山市長へ提出されました。委員の皆様におかれましては、作成にあたり、貴重なご意見やご提案など、多大なるご協力を賜りました。あらためて感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。</p> <p>さて本日は、令和5年度の提言書に基づき、来年度予算に向けて、事務局が検討し、予算要求した施策についてご案内いたしますとともに、令和6年度の提言書の方向性につきまして、委員の皆様からご意見をいただければと思います。</p> <p>加えて、令和7年度に予定しております産業振興ビジョンの改定につきましても、議論を進めてまいります。このたび皆様にご協力いただきましたビジョンの評価・検証の結果につきまして、内容を検証していきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> <p>本日の会議でございますが、設置要綱第6条第2項の規定に基づきまして、委員の過半数の出席がありましたので、有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>また、本日の議事の正確性を証するため、議事録に署名をお願いしたいと考えております。議事録署名人につきましては、名簿順に指名させていただきますこととなっております。前回は石川 泰正 委員でございましたので、今回は大木 委員をお願いしたいと思います。大木委員には後日、会議録を送付いたしますので、内容をご確認のうえ、ご署名をお願いいたします。</p> <p>本日もご出席いただいております 埼玉県産業振興公社 創業・取引支援部長の塚田様におかれましては、今年度より委員に着任いただきまして初めての会議となります。自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>(自己紹介)</p>
塚田委員	

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>また、関東経済産業局 地域振興課長の室住様の代理としまして、本日、地域振興課長補佐の古谷様にご出席いただいておりますことを報告させていただきます。</p> <p>ここで、あらためて本日の資料について確認させていただきます。</p> <p>事前に送付いたしました資料としまして、 資料1、「令和5年度 提言書に基づく施策（令和6年度当初予算要求）」 資料2、「令和6年度の提言書の方向性と議論すべき課題」 資料3、「産業振興ビジョンの改定について」 資料4、「産業振興ビジョン評価・検証チェックシート回答集計表」 以上4点でございます。 過不足などございませんでしょうか。 なお、本日、上尾市産業振興ビジョンをお持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは、規定に基づきまして、河藤会長に進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>2 議題</p> <p>それでは、次第の2「議題」に入ります。 本日の進行を確認させていただきたいと思えます。 議題（1）の令和5年度の提言書に基づく施策についてですが、既に提言書が提出され、現在予算要求が進んでいる状況ですので、事務局よりご報告いただき、自由に質問していただく形で進めたいと思えます。 議題（2）の令和6年度の提言書の方向性につきましては、再来年度の提言の素案について事務局よりご提示いただき、それをコアにしながらい見を出し合っていく形での資料となっております。従いまして、皆様の意見をしっかりと聞きをしたいということで、この項目についてはお一人お一人からご意見をいただきたいと思えます。 議題（3）は産業振興ビジョンの改定ということで、事務局よりご報告いただき、また皆様で意見を出し合う形で進めたいと思えます。 それでは、議題（1）「令和5年度の提言書に基づく施策について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事務局の商工課 岡野でございます。それでは、説明させていただきます。よろしくお願いたします。</p> <p>資料1の「令和5年度提言書に基づく施策（令和6年度当初予算要求）」をご覧ください。中身につきましては、事前にご覧になっていらっしゃるかと思いますので、何点かポイントを絞って説明させていただきます。</p> <p>先ほど小川から申し上げましたとおり、これまでの検討内容をまとめた令和5年度版の提言書を8月に市長へ提出いたしました。この提言書の内容を踏まえ、事務局では来年度に実施すべき施策を検討し、現在、予算案として財政課と調整を進めているところでございます。そのため、今後内</p>

	<p>容に変更等が生じる可能性もありますので、資料の取り扱いにはご留意いただきますようお願いいたします。</p> <p>提言書に基づき予算要求した施策につきまして、資料の①から⑩まで掲げておりますが、「新規」と書かれているものを中心にご説明いたします。</p> <p>②から④につきましては、今年度から新たに創設された補助制度でございます。②「SDGs商品開発費補助金」と③「DX促進補助金」につきましては、引き続き、中小企業の企業価値の向上や競争力の強化に向けた取り組みを推進するため、来年度も継続して実施したいと考えております。④「創業応援補助金」につきましては、今年度、執行額が予算上限額に達し、その後もお問合せをいただいている状況でございます。来年度も継続したいと考えております。</p> <p>次に、⑤「資格取得支援補助金」でございます。</p> <p>提言1で、事業者の持続的な成長を促すための支援が求められることを受け、市内の中小企業等で働く方を対象に、事業に必要な専門性が高い資格の取得に係る試験や講習等の受講に要する経費の一部を補助する制度を創設するものでございます。補助率は2分の1、補助上限は5万円としております。</p> <p>現在、中小企業は後継者不足による技術の継承が懸念されております。そこで、専門性が高い資格の取得の推進を図り、専門人材の育成と充実に繋がるよう実施してまいりたいと考えております。</p> <p>次に、⑥「農業者等経営改善相談業務」から⑩「農産物販売機設置事業」は農政課の事業となりますので、農政課よりご説明いたします。</p>
事務局	<p>農政課でございます。同じく提言1において、農業の持続的な成長を促すための支援として、農家が抱える営農課題の解決に向け、相談員を配置する⑥「農業者等経営改善相談業務」、地域の農業者へ将来的な農地の活用方法について外部講師により講習を行う⑦「農地活用等研修会」、新規就農に係る課題全般の相談支援として⑧「新規就農等相談業務」の実施を考えております。</p> <p>また、提言2にございます農業が持つ魅力やポテンシャルの掘り起こしとして、上尾産農産物のPRと新規就農者の販売促進、営農の効率化を図るため自動販売機を導入する⑩「農産物販売機設置事業」の実施を考えております。説明は以上でございます。</p>
事務局	<p>再度、商工課よりご説明いたします。</p> <p>最後に、⑪「飲食店と農家のニーズマッチング事業」です。</p> <p>こちら提言2を受け、上尾の農業が持つ魅力やポテンシャルの掘り起こしを進めるため、飲食店と農家との事業連携を図る施策でございます。「地元の食材を利用したい地元飲食店」と「地元飲食店に農産物を利用してもらいたい農家」のニーズをマッチングさせるため、マッチングミーティングを開催し、新たな商品開発を目指すものです。地産地消とにぎわいづくりの創出が期待できるものと考えております。</p> <p>議題(1)について、説明は以上となります。</p>

会長	各施策が現在、予算要求中であるということをございます。施策の実現に向けたご助言や内容について疑問があればご意見、ご質問をいただければと思います。
委員	(発言なし)
会長	<p>よろしいでしょうか。後ほどまた皆様からご意見をいただきますので、先へ進みたいと思います。</p> <p>それでは、議題（２）「令和６年度の提言書の方向性について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、資料２をご覧ください。</p> <p>令和６年度の提言書、つまり令和７年度以降に実施すべき施策について、その方向性を検討するものでございます。</p> <p>資料上段に掲載しておりますとおり、企業を取り巻く社会・経済情勢はコロナ禍からの業績回復の遅れやゼロ・ゼロ融資の返済に加え、長引く円安など、楽観できない状況が続いております。経営環境が激変する時代の中で、中小企業が抱える課題を解決するために、第三者である行政や支援機関の包括的かつ継続的なサポートがより一層求められる状況にあるものと考えております。</p> <p>検討するテーマでございますが、平成２６年度の産業振興会議設置当初より「中小企業支援」と「地産地消とにぎわいづくり」をテーマとして検討してまいりました。コロナ禍を契機として、中小企業支援の重要性がより高まっている情勢と、他業種連携など、地産地消とにぎわいづくりに向けた取り組みを少しずつ進めている状況でありますことから、事務局といたしましては、引き続き、このテーマにて検討していきたいと考えております。</p> <p>「中小企業支援」につきましては、人件費・原材料費・資材費の高騰や円安など、コストアップ要因が経営を圧迫し、企業は自助努力の限界を超える可能性があります。限界が近い状況からの支援では手遅れになるケースも考えられるため、早い段階での支援が重要となります。このため、自社が抱える課題の分析を行い、経営状況を十分に理解・把握するための支援が必要と考えました。</p> <p>また、この経営環境の激変を新たな挑戦へのチャンスと捉え、投資の拡大やサプライチェーンの構造転換、新規事業への参入などを進めている事業者も出てきており、こういった新たな挑戦への支援も検討すべきとしました。</p> <p>「地産地消とにぎわいづくり」につきましては、６次産業化やブランド化について検討を進めておりますが、１次産業である農業の土台がしっかりと築かれていることが肝要でございます。新規就農者を含め、農業者の営農継続や販路拡大、他業種連携など営農活動の下支えのために有効性のある支援メニューの構築が必要と考えております。</p> <p>また、上尾産農産物のブランドイメージを向上させ、地産地消を推進するためにはPRが重要と考えますが、現状では有効なPRができています。</p>

事務局	<p>は言えません。専門家による課題の検証を含め、魅力を発信する方策を検討すべきとしました。</p> <p>事務局では今後の支援について、このような方向性で考えておりますが、妥当性や実効性も含め、忌憚のないご意見をいただければと思います。また、具体的な施策のアイデアなどもございましたら是非お願いいたします。来年度の提言書に向けた施策について最初の検討となりますので、どのようなことでも結構です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ここで事務局より1点補足をさせていただきます。</p> <p>説明の中で申し上げました来年度の提言書のテーマとなる「中小企業支援」と「地産地消とにぎわいづくり」でございますが、平成26年度からコロナ禍前までは専門部会を設け、このテーマに基づき協議・検討してまいりました。コロナ禍も収束しつつある中で、来年度以降は専門部会をどのようにしていくかということでございますが、事務局としましては、今年度同様に専門部会は開催せず、この全体会議を通じて協議・検討を図っていきたいと考えております。</p> <p>理由でございますが、資料1でも説明いたしましたが、提言1は中小企業支援という大きな枠組みでございます。来年度の予算要求をした施策に記載がございますように、農業部門の取り組みも入ってきているところでございます。中小企業支援には農業部門も大きく関係しているというところもございますので、分けるのではなく、この全体会議で横断的な検討を図ることができればより効率的であると考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
会長	<p>ただいま、令和6年度の提言書の方向性と議論すべき課題ということで説明がございました。</p> <p>「中小企業支援」と「地産地消とにぎわいづくり」の2本立てでこれから議論していくことについて如何かということですが。</p> <p>それから、コロナ禍前に開催していた専門部会をどうするかという相談になります。この点については、事務局から説明がありましたように、この2つのテーマの領域が非常に密接に関係しているということでもあります。専門部会という形をとるのではなく、この全体会議でこの2本立てのテーマで議論していくことは如何かというご相談であります。</p> <p>このことについてご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>(発言なし)</p>
会長	<p>この議論のフレームということでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、今確認をさせていただいた形で進めていきたいと思っております。</p>
会長	<p>それでは本題に入りますが、令和7年度の施策に向けた令和6年度の提言ということで、この会議において主要な部分の一つになります。行政に対する提言や情報提供、アドバイスなど、皆様からできる限り多くのご意見をいただきたいと思います。つきましては、お一人お一人からご意見をいただくという形で進めたいと思っております。</p>

<p>会長</p> <p>●●委員</p>	<p>●●委員からお願いします。</p> <p>最近の国の動きを話させていただきますと、現在国会で審議されている令和5年度補正予算案の中身を見ても、物価高対策、エネルギーコスト対策、人手不足や人材不足を補うため省力化を進める設備投資、また、人材のスキルを高めるためのリスキリング支援が大きな柱となっております。</p> <p>この意味では、資料1、2とほぼ連動していると思います。事業者の持続的な成長を促すためにどのようなことが必要であるかを考えたうえで予算案も提出しており、提言でも中小企業・小規模事業者を取り巻く環境や経営状況の分析は大きな方向としては一致していて非常に良いと思います。DXや創業支援につきましては引き続き支援していただければ良いと思いますし、資格取得についても国のリスキリング支援とは異なる部分を補填していただけたらと思います。</p> <p>資料2の中小企業支援の部分で「経営状況の把握と課題の分析」の記載がありますが、まさにここが大事ではないかと思います。地域によって企業の数や規模、業種は様々ですので、上尾市ではどのような企業が多く、どのような課題が多いのか分析していただきながら政策を考えていただくことが良い方向ではないかと思います。</p>
<p>会長</p> <p>●●委員</p>	<p>国では新しい経済対策が出てきているということで、その方向性と上尾市で取り組んでいる施策、あるいは、これから検討する方向性が合致しているということを確認いただきました。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p> <p>商業施設も人材不足が非常に多くなっています。特に飲食店に多く、人手不足でお客様への提供が間に合わないことや、お客様をお待たせしてしまい他の店に流れてしまう、そのような状況が多くなっております。人件費が高騰している中でも人材不足で何とか人を集めたいというのが店側の本音です。</p> <p>このような中で、今回、中小企業支援ということで、人材育成の内容が非常に多く記載されており、このあたりの内容は合致しているかなと思いますので、メインに進めていただければと思います。</p>
<p>会長</p> <p>●●委員</p>	<p>人材が不足する事態への対応、対策が非常に大事だということでございます。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p> <p>中小企業支援の部分ではSDGsやDX関連について、力を入れていかなければいけない分野だと思いますが、中小・零細企業の声聞いていますと、余裕がないというのが現状だと思います。</p> <p>また、廃業が多くなってきており、経営がギリギリのところ相談を受けるケースが増えており、資金繰りが逼迫する前に相談をしていただければ何とかなったかもしれないというケースもあります。もう少し相談しやすい環境を整えていく必要があると感じております。</p>

	<p>M&Aについても昔は大企業が多かったのですが、中小企業それ以下の企業も非常に増えてきております。これは後継者不足ということも一つの理由だと思いますが、コストアップに耐えきれないとか、なかなか新しい投資ができないなどの理由もあると思います。中小企業サポートセンターや中小企業活性化協議会などと連携を図りながら企業をサポートしていきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>SDGsへの取り組みについては、企業として社会的な課題の解決にどう取り組むのかということで大事な議論だと思います。</p> <p>廃業については、その要因を個別に分析しながら事業承継やM&Aなどについて議論を進めていく必要があるのではないかと課題提起をしていただきました。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>中小企業サポートセンターが今後より一層重要な役割を果たしていくことになる実感しました。</p> <p>上尾の農業といえば、すぐにキウイフルーツは思い浮かべるのですが、その他に上尾の農業の特色は何だろうと考えたときに答えが出ませんでした。</p> <p>資料1の提言2に記載されているように、「上尾の農業が持つ魅力やポテンシャルの掘り起こし」について、私達も考えていかなければならないと感じました。</p> <p>市内の畑で作業している人を見てると、とても広い場所を1人で作業しており、やはり人手が足りないのかなと感じます。</p>
<p>会長</p>	<p>中小企業サポートセンターの重要性についてですが、上尾市では、行政と商工会議所が連携して運営していますが、行政と商工会議所が連携して地域の中小企業にきめ細かいサポートを提供しているところは全国でも珍しく、非常に貴重な取り組みだと思います。この機能を充実させていくということが大変重要だと思います。</p> <p>農業についてはキウイの他に思いつかないという話がありました。上尾の農業の特色はやはり都市型農業ということで、米作りも大事ですが、果物や野菜などの商品作物が非常に大きな意味を持つということです。顔が見えない、個性が見えないという状況だと思いますので、ブランド化戦略をどのようにしていくのが大事だと確認させていただきました。</p> <p>農業においてもやはり人手不足ですね。人材確保が大事だということです。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>資料2の上段に「中小企業・小規模事業者を取り巻く社会・経済情勢」について記載されていますが、これらのほぼ全ては自分も感じていることです。</p> <p>特に飲食業ですが、ゼロ・ゼロ融資の返済が滞ったり、上尾市から定期的に事業者補助金を受けても所得となるため税申告にて一部戻す必要が</p>

<p>会長</p>	<p>あつたり、今頃になり閉店や廃業をしているところが見受けられます。融資を延長する施策を検討してはどうでしょうか。</p> <p>商業・工業に限らず円安の影響が大きくなっています。資材を輸入する際、これまでは2、3年で2～3%上昇する程度でしたが、この1、2年は年間に1～2割の上昇が年度内に2、3回あります。そうすると、例えば公共機関に半年先の見積書を提出する際、いざ納品する時には見積額より上昇してしまっているわけです。原材料費や資材費の高騰を含め、どうにかならないかと感じております。</p> <p>DX関係では、電子決済を広めようと思うのですが、まだまだ広がっていません。広がらない要因の一つとして、大手と中小で差がある決済手数料があると思います。差額を補填することはできないかと思っています。</p> <p>ゼロ・ゼロ融資への対応について、厳しい状況に対し事業の存続を基本に置きながら、どのように対応していくのか、非常に難しい問題ではありますが、金融機関をはじめ、関係機関が連携してしっかりとサポートしていく、また、自立性を高めていくことが大事だと思えます。</p> <p>円安の影響については、輸入コスト増大への対応を考えていかなければいけないということ、また、電子決済の導入には手数料のハードルがあるため、この対応についてもこれから議論していく必要があると思います。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>
<p>●●委員</p>	<p>資料2で「中小企業支援」と「地産地消とにぎわいづくり」の説明がありましたが、産業振興ビジョンを見ますと、産業全般の説明として、農業、商業、工業、観光の4分野となっております。地産地消とにぎわいづくりというと農業のイメージがありますが、観光については検討していないと思いますので、4分野をバランス良くフォローしていく見方も必要ではないのかと思います。</p> <p>地産地消という表現ですが、なんとなく内向きのイメージがあります。地元で作ったものを地元で食べていこうという解釈もできるので、そうではなく、上尾で作ったものを、もっと広く市外、県外あるいは全国の方に食べていただきたいという外向きの表現やキャッチフレーズがあってもいいのかなと思いました。</p> <p>中小企業支援につきましては、先ほども話が上がっておりましたが、確かに廃業する方が多いと私も感じております。ハードルは高いかもしれませんが、実際に経営をされている会社の代表者、あるいは個人事業主の方の生の声をいかに拾うかだと思います。事業者との距離の近さがやはり必要なのかなと思っております。</p> <p>例えば、確定申告受付時などは、事業者と直に接するわけですから、会場で売り上げや利益について生の声を聞くことや、中小企業サポートセンターの紹介や案内ができると思います。実際に接触できる機会はあると思います。</p> <p>コロナでやはり産業構造、就労構造が変わったのだらうと思います。コロナが収まりつつある今、どのようなジャンルや業種で人が足りていないのか、余剰になっているのかを把握し、万が一、会社が廃業するとなった際に人を必要としているジャンルや業種に人の情報を提供する、あるいは</p>

<p>会長</p> <p>●●委員</p>	<p>必要としているところに就労を促していくというような施策も必要なのかなと思います。</p> <p>勇気を持って違うことにチャレンジしていくことに対して背中を少し押してあげるようなことも必要かなと思います。M&Aという話が出ましたが、中小企業ですと譲渡する側というイメージがありますので、なんとなく後ろ向きのイメージがありますが、もう経営できないと思ったときに後を継いでくれる方を探して楽になるというような事業継承マッチング支援の施策も検討いただければと思います。</p> <p>これまで観光については「地産地消とにぎわいづくり」の中で議論していましたが、最近は議論がないのではないかと問題提起と受け止めました。以前は地域の個性を活かした都市型観光について議論していたことがありました。観光を含めた4分野をしっかりとフォローする必要があるということだと思います。</p> <p>産業政策において地産地消という言葉は「地元のをしっかり使う」という意味で使われますが、言葉そのものを見ると「地元で採れたものを地元で消費していく」と読めます。地域の産業や経済を活性化するためには外から所得を持ってこなければいけないという考えもあります。地産地消は外との関係が大事であるということです。例えば、地域ブランド戦略とにぎわいづくりなども検討してはどうかと思いました。</p> <p>廃業が多いということで、どのようなニーズがあるのか生の声を聞く必要があるということ。中小企業サポートセンターを活用していくということも一つの提案になるかもしれません。</p> <p>また、就労構造における労働のミスマッチですが、行政や様々な関係団体と連携してミスマッチを解消する政策が必要ではないかというご提案をいただきました。</p> <p>それでは●●委員、お願いします。</p> <p>資料2の上段に、「中小企業・小規模事業者を取り巻く社会・経済情勢」と記載されておりますように、非常に厳しい環境となっておりますが、もう1点、懸念しているのが金利上昇でございます。</p> <p>長い間、変動金利の金利は変わっておりませんが、恐らく近い将来、ゼロ金利やマイナス金利の政策は解除になると思います。そうなりますと、金利が徐々に上がり影響が出てくると思います。金利による一つ環境の変化としてご認識いただければと思います。</p> <p>事業承継についてですが、中小企業は今ある事業をどのように継続していくかについて非常に悩んでいます。手法としてはM&Aや後継者にスムーズに引き継ぐなどあると思いますが、その中の一つの選択肢として廃業するという選択は必ずあると思います。どちらかというと成長の支援に目が向きがちですが、廃業する方の支援もラインナップの一つとして検討していく必要があるのではないかと考えております。</p> <p>中小企業サポートセンターは非常に良い施設だと思います。どれぐらい利用されているかについては引き続きチェックしていただき、利用率が低い、補助金の利用が少ないなどがあれば、何らかの対策を打っていく必要があるのかと思います。</p>
-----------------------	--

<p>会長</p>	<p>金利の上昇について心づもりをしておかなければいけないということです。過去の金利水準から見ると今は非常に低いという状況があるので、金利上昇の可能性は十分にあるということです。金利の上昇も織り込んだ政策対応が必要だということです。</p> <p>事業承継の問題については、廃業や事業承継を円滑に進める、あるいはM&Aなど、様々な可能性を取り込みながら施策を進めていくことが必要だと思います。</p> <p>中小企業サポートセンターの相談件数や利用率に限らず、施策の利用率や利用者の声なども継続的にモニターしていく必要があると思います。</p> <p>それでは、●●委員よろしく申し上げます。</p>
<p>●●委員</p>	<p>資料2の「中小企業・小規模事業者を取り巻く社会・経済情勢」のところですが、的確に最近の情勢を捉えていると拝見しました。このような状況を踏まえた上で、中小企業支援、地産地消とにぎわいづくりでお示しただいている内容は、この会議そのものが産業という大きな捉え方の中で、農業・商業・工業・観光の分野をしっかりと捉え横断的な検討をされていると認識しました。</p> <p>資料1の提言1の下に伴走支援型という言葉があります。支えるということは、下から支えますから、支えがなくなると落ちてしまいます。伴走支援は、やはり寄り添って支援をしていくものであると認識しております。中小企業サポートセンターが事業者に寄り添い、伴走することでいざれ飛躍していくという姿が描けると理想的かなと感じています。</p> <p>提言の農業分野のポテンシャルについて、先ほども話がありましたが、確かに車で上尾の近辺を走行していると、高齢の方が畑に立っている光景を見ます。ただ最近では、若い方が農業を始めたいとテレビで取り上げられているところも目にしておりますので、そういったポテンシャルがあり、さらに都会にも近い上尾市の強みを活かして、掘り起こしに繋げていくのが良いのではないかと思います。</p> <p>令和6年度の予算要求に関しては、既存の令和5年度も実施されている補助金等も含め、非常に充実しているメニューだと思います。補助によってこれだけ効果があった、頑張ることができた、といった実際に補助金を使った事業者からの生の声を伝える仕組みがあると良いと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>産業分野の横断的な施策は必要だということです。事務局から説明がありましたが、現在はお互いの分野が密接に関連しているということです。関連した施策を考えていくことが必要でないかという話であったと思います。</p> <p>また、中小企業支援の方策につきましては、伴走型という寄り添いながらの支援が大事だということ。また、農業分野のポテンシャルについては、しっかりと顕在化させ、若い人たちが参入していけるような方策が必要であるということであったと思います。</p> <p>例えば、補助金を活用した事業者が講師となり、成功事例を紹介したり、勉強会を実施するという取り組みもあるのではないかと思います。</p> <p>それでは、●●委員お願いします。</p>

<p>●●委員</p>	<p>資料2の「中小企業支援」についてですが、支援にあたっては資料の下段に記載してありますように、経営状況をしっかり把握、分析し、いかに効果的な支援の方策を打ち出すかが非常に重要だと思っております。今年度の上半期の法人住民税が落ち込んでいるという情報もありますが、コロナの影響が時間差で表面化してきたのか、もしくは資料に記載されているように、人件費や原材料費の高騰などが影響しているかもしれません。経営状況をしっかり把握することが非常に大事だと思います。</p> <p>また、人手不足については、業績が良くても後継者がいないために廃業を考えている事業者もいらっしゃいますので、経営状況の把握と併せて様々な人手不足の理由を把握していただくことが良いと思います。</p> <p>「地産地消とにぎわいづくり」ですが、多くの人が上尾を訪れ、買い物をし、観光を楽しみ、最後は飲食をしていただくことが有効ではないかと考えております。上尾が持つ観光のポテンシャルを引き出すような良いスポットを積極的にPRすることで人を呼び込む方策も重要だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>経営状況をしっかり把握するということが大事だということと、人手不足について、事業の継続のためにも人材の確保はやはり大事だということです。</p> <p>観光についても上尾のあり方を考えていく必要があるということです。それでは、オブザーバーをお願いします。</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>資料2の上段は企業の生の声と課題を捉えていると思います。</p> <p>この3、4年は耐える時代があり、現在はまた原材料費の高騰で苦しんでいるわけですが、ここを超えますと、攻める時代になってくると思われれます。その一つとして創業です。新しい企業を生み出すことや創業者の発掘にも力を入れていければと思います。</p> <p>また、コロナで弱まっている企業の体力について、どのようにすれば戻せるかが一つの課題になってくると思います。様々な助成金や補助金はありますが、体力をつけてから、次の段階に進むべきだと思っております。体力がない企業はゼロ・ゼロ融資を含め、返済が困難になってきていますので、いかに体力を上げていくかの政策が必要だと思います。</p> <p>攻める部分になりますと販路拡大や異業種の分野への挑戦などがあると思います。今までやったことのない分野へ挑戦するというようなやる気のある企業の発掘もこれからは必要になってくると思います。</p> <p>中小企業サポートセンターは開設して3年目になりました。相談件数が減少傾向にある理由の一つはPR不足かなと思っておりますが、商工会議所が単独でPRをしても、全企業まで届かない部分があります。関係機関、団体の連携が必要になってくると思いますので、企業からご相談があった場合には中小企業サポートセンターがあるよと一声かけていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>創業支援について、コロナによって業種の実態がどのように変わったか分析する必要はあるかと思いますが、支援の重要性を確認しました。</p>

<p>●●委員</p>	<p>攻めの経営に繋げていくためには、まず事業が継続できるようにどのように基礎的なサポートをするのかということも忘れてはいけないということでした。</p> <p>また、頑張っている企業を見つけ育てていく、サポートしていく施策も重要です。</p> <p>それでは●●委員、お願いします。</p> <p>市は財源が決まっており、企業への現金給付を大きくしていくということは困難でございます。現在行っている事業の中で内容の見直しを行い、新しいものを用意していくことが、資料1にご提示している令和6年度当初予算要求の状況でございます。</p> <p>情報収集と現状の把握が必要だと思っております。どのような事業を行っていただければ企業の皆様が潤っていただけるか、どこに力を入れていただければいいかについて、今後、資料2でご提示している内容をもとに、提言としてまとめていただければと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>限られた財政資源の中で重要な施策に優先順位をつけて実施していくことが必要だということです。スクラップアンドビルドも必要だと思います。それを判断するためには、現状の把握を含め情報収集が非常に大事だということです。</p> <p>それでは副会長、お願いします。</p>
<p>副会長</p>	<p>資料1の令和6年度当初予算要求に計上した各施策には実績の情報がございません。どの程度、どのように使ったのか実績を示していただけると分かりやすいと思います。</p> <p>また、スクラップアンドビルドの部分に関しても、変更点などを示していただくと、令和7年度にしっかりとした施策ができてくると思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>本日のご意見はとても参考になりました。今後、商工課並びに農政課で意見をまとめていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>実績の数字については、資料としてご提示いただくとよいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございました。参考にさせていただきたいと思っております。</p> <p>先ほど、「地産地消とにぎわいづくり」について、観光に関する分野が抜けているのではないかとご指摘をいただきました。現状といたしましては、観光は地産地消の分野にて、6次産業化を含む内容を踏まえ検討を進めているところでございます。</p> <p>観光については農業・商業・工業を含め、複合的な分野を統括していくものと考えております。上尾市の魅力の情報発信をどのように図っていくかということにもなりますので、毎年の提言書の中での提案というよりも、今後改定作業を進めていく大きな指針である産業振興ビジョンの中で検討していければと考えているところでございます。</p>

<p>会長</p>	<p>また、補助金の実績でございますが、限られた予算の中で、時勢に沿った取り組みを、いかに検討していくかが非常に重要だと考えております。資料1の令和6年度当初予算要求に計上した施策の②③④は、今年度新たに組み込んだ施策でございますが、来年度も継続を考えております。</p> <p>SDGsに関しては、事業者は必要性を理解しつつも手をつける余力がないという状況かもしれませんが、市としては利用したいという声が出た時に支援できる体制は備えておきたいと考えております。来年度に関しては、支援の仕組みは残しつつ、今年度の実績に応じて予算額を減らし、減らした予算を今回新たに提案させていただいている資格取得支援補助金に充てるなど、限られた予算の中で新たな施策に取り組んでいく体制を進めております。</p> <p>観光につきましては、現行のビジョンを策定する際や産業振興会議の中でもかなり議論されました。上尾にとっての観光とは何なのかということです。事業化に向けた施策になかなか繋がっていないところがあります。</p> <p>6次産業による特産品やブランド化を図る商品などもありますが、都市型の観光というと、例えば環境として市街地と公園などがあります。宿泊型ではなく、普段大都会で働いている方が癒しを求め、食事などを楽しむといった議論もあったかと思えます。過去の資料も見ていただくと施策に踏み込んでいけるかなと思えます。</p> <p>SDGsについては、このような社会的課題に対して、経営が厳しい中小企業がCSRのような社会的貢献やボランティアのような形で関わっていくということになると、やはり限界があると思えます。例えば、環境分野の取り組みで収益が上げられるなど、収益を目的として事業者が社会的課題の解決に取り組めるように事業の中身と社会的貢献が一致するような方向性やフレームを作り提示しないと賛同はなかなか難しいと思えます。継続して検討していただきたいと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、議題(3)「産業振興ビジョンの改定について」事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3をご覧ください。</p> <p>「産業振興ビジョンの改定について」でございますが、前回の第1回会議でもご説明いたしました。本ビジョンは平成26年に策定され、10年が経過しようとしております。令和8年3月の改定に向けまして、これまでの10年を振り返り、ビジョンの内容を評価・検証し、その結果をもとに引き継ぐもの、改善するものを精査する段階となっております。</p> <p>このたび委員の皆様にご協力いただきましたビジョンの評価・検証につきまして、回答結果を取りまとめさせていただきました。「産業振興ビジョン評価・検証チェックシート」回答集計表をご覧ください。集計結果を円グラフで表示させていただき、それぞれの回答毎に色分けをしております。その他の評価理由、ご意見等については、皆様からいただきましたご意見を掲載しております。</p>

	<p>全体的な回答の傾向でございますが、課題に対するアプローチの方向性につきましては、多くの事業で「合っている」という結果でした。計画した施策が課題の解決に即したものであったと評価いただいたと考えております。また、次期ビジョンにおける必要性につきましても、概ね次期ビジョンにおいても必要「あり」であったことから、引き継ぐ事業は多いものと考えております。しかし、次期ビジョンにおいて必要と評価していても、目指すべき姿への寄与度については「低い」と評価している事業もございました。事業そのものは継続すべきであるが、実施主体や実施形態の検討が必要であるといったご意見や、事業としては必要であるが、ビジョンに掲載する必要があるかといったご意見もございましたことから、今回の回答結果をより詳細に分析し、事業の必要性を見極めることが重要であると考えております。</p> <p>資料の中段に、次回の第3回会議にて協議する予定を掲載しております。このたびの評価・検証の結果や、本日、皆様より頂戴いたしましたご意見をもとに、各産業における課題を整理し、あらためて委員の皆様へご提示する予定でございます。また、今後実施予定の事業者アンケートやヒアリングに盛り込むべき事項などについて協議する予定でございます。</p> <p>参考といたしまして、資料下段に令和6年度以降のスケジュールを記載しております。来年度からは、コンサルタントや市民の委員を含めて改定作業を進める予定でございます。政策の柱となる基本方針の決定など、具体的な施策について協議していきたいと考えております。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>資料3の説明は以上でございます。</p>
会長	<p>チェックシートと今後の進め方についてご説明いただきました。ご質問、ご意見、アドバイスなどございましたら、自由にお願ひします。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>進め方については、概ね異論なしということですのでよろしいでしょうか。</p> <p>(了承の領き)</p>
会長	<p>それでは、このような形で進めさせていただきます。</p> <p>チェックシートは非常に貴重なものだと思います。令和6年度には事業者アンケートやヒアリング調査を実施していくということですので、このような客観的な意見も踏まえながら分析を進めていくことになると思います。特に、考え直した方が良いのではないかと、効果がどうなのか、方法がどうなのかなど、意見が割れるものを重点的に注目しながら、その部分に対してどうように対応していくのかということですので。</p>
会長	<p>それでは、議題(4)「その他」ですが、事務局より何かありますか。</p>
事務局	<p>次回の第3回会議につきましては、3月下旬を予定しております。日程が決まり次第あらためてご連絡させていただきます。</p>

<p>会長</p>	<p>以上で議事を終了いたします。 進行を事務局にお返しいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 閉 会 ありがとうございました。 それでは、最後に副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>(閉会の挨拶)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>